

中 学 校

平成 2 2 年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究構想図	1
III	研究の方法	2
IV	研究の内容	3
	1 調査研究	3
	2 生徒会活動の活動計画例	5
	3 検証授業 1	6
	(1) 生徒会活動の実践事例	6
	(2) 学級活動の実践事例（第一学年）	8
	4 検証授業 2	10
	(1) 生徒会活動の実践事例	10
	(2) 学級活動の実践事例（第一学年）	13
V	効果検証と研究の提言	15
	1 効果検証の概要	15
	2 効果検証の分析と考察	15
	3 研究の提言	15
VI	研究のまとめと今後の課題	16
	1 研究のまとめ	16
	2 今後の課題	16

研究主題

生徒会の一員としての自覚をもち、生徒会活動に意欲的に参画する態度を育てる指導の工夫 ～学級活動と関連させた指導の工夫～

I 研究主題設定の理由

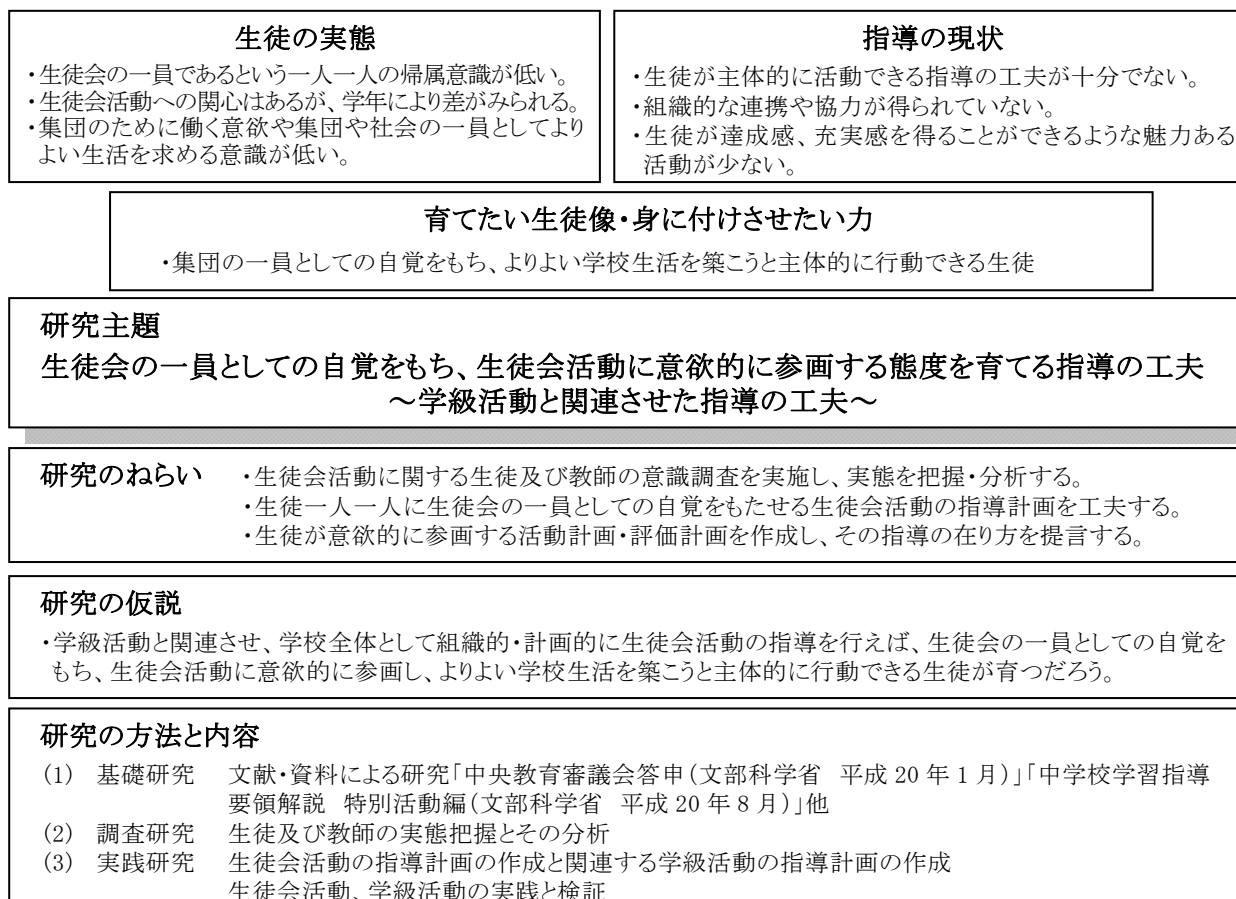
中央教育審議会(答申)では、「特別活動の特質を踏まえ、特によりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視する」ことが示された。それを受けて、今回の学習指導要領の改訂で、特別活動の目標に「人間関係」の文言が加えられる

とともに、新たに生徒会活動の目標(右枠)が示された。生徒会活動は、生徒にとって学校生活の中で身近な活動であり、生徒の自主性・主体性を育てるとともに、学校集団としての活力を高め、健全で豊かな学校生活が展開できるような集団を育成することが期待されている。さらに、生徒会活動で育てたい「望ましい人間関係」とは、豊かで充実した学校生活づくりのために、一人一人が生徒会組織の一員としての自覚と責任感をもって、共に協力し、信頼し支え合おうとする人間関係である。

＜生徒会活動の目標＞
生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

しかし現状では、生徒会の一員としての生徒の意識や自覚が低く、生徒会活動が一部の生徒の取組になっている場合が少なくない。また、それを高めるための組織的・意図的な教師の指導も十分とはいえない。このような状況を改善し、生徒会組織の一員としての意識を高め、学校や社会の一員としてよりよい学校生活へ貢献するための役割や責任を果たす生徒を育成する必要がある。そこで、学校生活の充実・向上に関わる問題についてみんなで話し合っ実践するなど、生徒会活動に意欲的に参画する態度を育てる機会を意図的、組織的に設定する必要があると考え、本研究主題を設定した。

II 研究構想図



Ⅲ 研究の方法

特別活動における望ましい集団活動を通して、生徒に集団生活や社会生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度や能力を養う。とりわけ、生徒会活動を通して、一人一人の生徒が生徒会組織の一員としての自覚と責任感をもち、共に協力し、信頼し支え合おうとする人間関係を構築する。しかし、生徒会活動が一部の生徒の活動になってしまい、生徒会活動に対する生徒一人一人の関心や意識が高いとはいえない現状がある。それは、生徒が生徒会活動の意義を理解していなかったり、教師が生徒会役員会の指導担当者任せで学校全体としての共通理解がされていなかったりすることなどが要因ではないかと考えた。そこで本研究では、生徒会活動の指導だけでなく、学級における学級活動の指導にも着目して、生徒一人一人が生徒会組織の一員としての自覚がもてるような指導の工夫を実践し、それを検証することにより、本研究のねらいに迫ることとする。

研究の主な方法については次の通りである。

1 調査研究により生徒の生徒会活動に関する意識を明らかにする。

(1) 聞き取りや観察による調査

教育研究員が所属する各校の生徒会役員会の生徒に対して、生徒会活動の実施状況や抱えている課題等について聞き取りを行う。生徒会役員から直接意見を聞くことにより、各学校の課題を把握し、調査研究につなげる。

(2) 質問紙による調査

生徒会活動に関する意識についての調査を、所属校の生徒を対象に行う。また、生徒会活動の指導に関する調査を、所属校の教師を対象に行う。これらを集計、分析することで、生徒会活動に関する課題を把握し、研究のねらいに迫る。調査の項目については、学習指導要領の改訂に伴って示された特別活動の評価の観点に着目して設定した。

観 点	集団活動や生活への関心・ 意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
--------	-----------------------	--------------------------	-----------------------

2 生徒一人一人が生徒会の一員であるという自覚を高める活動計画を作成する。

(1) 各種委員会や学級活動と関連させた生徒会活動の活動計画の作成

各所属校の生徒会活動の指導計画を調査し、生徒会活動のねらいや評価について検討し、各種委員会や学級活動と関連させた生徒会活動の活動計画を示す。

研究主題に迫る手だて1

<生徒会活動の指導の工夫>

- ・学級活動や各種委員会等に関連させた生徒会活動の活動計画の作成
- ・全教師で共通理解及び共通実践する指導の工夫

(2) 学級活動の指導計画の作成

生徒一人一人が生徒会の一員であるという自覚を高める工夫として、生徒会活動の意義の理解などを題材にした学級活動の指導計画を作成する。

3 生徒会活動や学級活動の検証授業を行う。

教育研究員が所属する学校で生徒会活動や学級活動の検証授業に取り組み、その成果を分析する。

研究主題に迫る手だて2

<学級活動の指導の工夫>

- ・生徒会活動の意義の理解
- ・学級活動における話し合い活動の工夫

4 質問紙による効果検証を行う。

生徒会活動に対する意識についての調査を、生徒を対象に行う。検証授業前の調査の結果と比較することで、効果検証を行う。

IV 研究の内容

1 調査研究

(1) 生徒会活動に関する生徒の意識調査(概要)

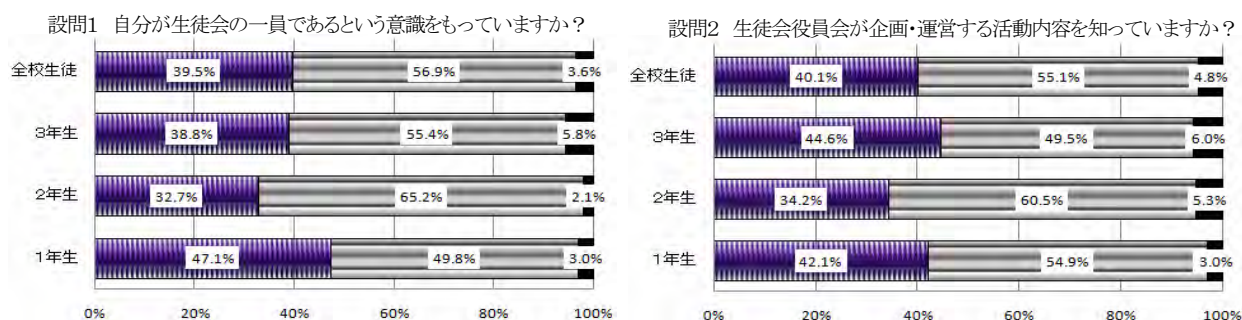
ア 調査の概要

生徒が生徒会の一員としての自覚をどの程度もっているのか、また、生徒会活動に対する関心や意欲などを把握するために実態調査を行った。調査は教育研究員所属の都内5校の生徒1,763名を対象に7月に実施した。「生徒会活動に関する意識調査アンケート」の質問項目については、学習指導要領の改訂に伴って新たに示された評価の観点に着目して作成した。

設問 1	自分が生徒会の一員であるという意識をもっていますか	関心・意欲・態度
設問 2	生徒会役員会が企画・運営する活動内容を知っていますか	知識・理解
設問 3	生徒会役員会が企画する活動に関心はありますか	関心・意欲・態度
設問 4	生徒会役員会が企画する活動に取り組みたいと思いますか	関心・意欲・態度
設問 5	生徒会役員会の活動にどう取り組みましたか	思考・判断・実践

イ 調査結果の分析と傾向および考察

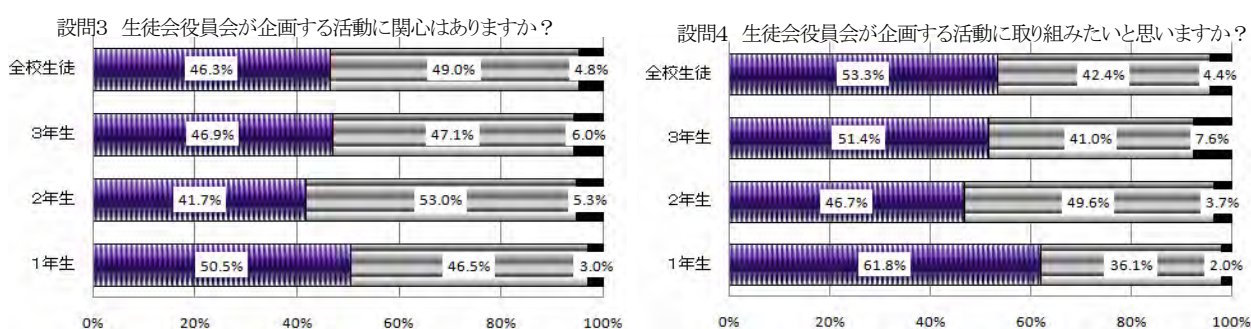
■はい □いいえ ■無回答



設問1の集計結果からは、自分が生徒会の一員であるという意識をもっている生徒は、1年生では約47%と半数近くが肯定的な回答をしているが、全学年を合わせると40%を下回る結果となり、全体的に意識が低い傾向にあることがわかった。各学校の生徒会活動そのものが活発でなかったり、全校で取り組んでいる活動にも、生徒が充実感や達成感を得られていなかったりするのではないかと考えられる。

設問2の集計結果からは、生徒会活動の活動内容を知っている割合が比較的高い3年生でも、約45%にとどまる。全学年を合わせると、生徒の約40%しか生徒会役員会の企画する学校全体で取り組む生徒会活動の内容を知らない状況である。生徒会役員会が企画・運営する活動内容の継続的なPRや活動状況、結果等をタイムリーに全校生徒に知らせていく工夫などが必要であると考えられる。

設問3と設問4の集計結果では、生徒会活動への関心や意欲が、やはり低く、取り組みたいという意欲については、1年生では約60%と比較的高いものの2年生で急激に下がっている。さらに、設問4につ



いて、「いいえ」と答えた生徒は、その理由として、「活動がわからない。興味がない。」と回答しており、生徒会活動が全校生徒にとって興味をもち、充実感や達成感を味わえるような指導の工夫が必要である。

また、設問5の集計結果からは、学年進行にともない、生徒会活動の参加者がやや増えているが、肯定的に回答している生徒が、3年生でも約60%に満たない状況が明らかになった。このことから、生徒が意欲的に生徒会活動に取り組むよう、教師が意識的に働きかける必要がある。

(2) 教師の意識調査

ア 調査の概要

生徒会活動の指導について、その実態を把握するために、教師の意識調査を実施した。調査は都内公立学校の教師66名を対象に7月に実施した。

イ 調査結果の分析と傾向および考察

設問1: 生徒一人一人に、生徒会の一員であるという意識や意欲をもたせるために、指導の工夫をしていますか。

よくやっている	ある程度やっている	あまりやっていない	やっていない	回答総数
6	41	16	3	66人
9.1%	62.1%	24.2%	4.5%	

設問2: 生徒会活動の年間指導計画を把握していますか。

把握している	把握していない	回答総数
44	22	66人
66.7%	33.3%	

設問3: 生徒一人一人が、生徒会役員会の企画する活動へ関心や意欲をもつために、指導の工夫をしていますか。

よくやっている	ある程度やっている	あまりやっていない	やっていない	回答総数
6	34	24	2	66人
9.1%	51.5%	36.4%	3.0%	

設問4: 今回の学習指導要領の改訂で、生徒会の目標が設定されましたが、そのことを知っていますか。

知っている	知らない	回答総数
15	51	66人
22.7%	77.3%	

設問5: 生徒会役員会の企画する活動に、生徒一人一人が取り組むための支援をしていますか。
(意義の理解、実施方法の周知、教室環境の整備、賞賛など)

よくやっている	ある程度やっている	あまりやっていない	やっていない	回答総数
11	40	12	3	66人
16.7%	60.6%	18.2%	4.5%	

集計結果からは、生徒に生徒会の一員であるという自覚や生徒会活動への関心・意欲をもたせるための指導について、約30%~40%の教師が否定的な回答をしている。また、3人に1人の教師は生徒会活動の年間指導計画を把握しておらず、生徒会活動の目標が設定されたことを知っている教師は約23%に過ぎなかった。また、生徒が生徒会活動に取り組むための支援については、20%以上の教師が否定的な回答をしている。これら生徒及び教師の意識調査の結果から、学校が組織的に生徒会活動の活性化を図る必要があると考えた。そのためには、生徒会役員会の指導担当者だけでなく、学級担任を始めとする教師全員が組織的に指導にあたることのできるような工夫をすることが必要である。

2 生徒会活動の活動計画例（学級活動や各種委員会を関連させた生徒会活動の例） ※年間活動計画の中から抜粋

生徒会役員会	中央委員会	各種委員会	学級	ねらい	留意点	評価
生徒会前期任命式 前期認証式	前期第一回中央委員会 内容の検討	前期第一回各種委員会 具体的な取組内容の検討や役割分担	前期組織・目標づくり 班編成	新組織のもとで活動する自覚をもたせる。	新しい1年間の生徒会活動に関心をもちたい。	生徒会の一員としての自覚がもてたか。
新入生歓迎会	内容の検討	具体的な取組内容の検討や役割分担	新入生歓迎会の意義の理解	新入生が生徒会の意義を理解し関心をもちたい。	新入生に生徒会組織をわかりやすく伝える。	新入生にどれだけ生徒会の意義を伝えたいか。
生徒総会	定例中央委員会 生徒総会議案書質疑検討	定例各種委員会 生徒総会議案書 回答討議	生徒総会の意義の理解 生徒総会議案書討議 生徒総会議案書読み合わせ	生徒会の一員としての意義をもたせ活動内容を意識させる。	多くの生徒が多面で関わりをもてるようにする。 意見の出やすい雰囲気づくりをする。	的確な質問や意見を述べられたか 活発な討議および改善しようという意欲が見られたか。
意識調査を活用した取組 P.6 事例へ	意識調査の取組方法や設問についての検討及び調査の実施 <P.6事例参照> 「生徒会の一員であるという自覚を高めよう」 全校体制で行う選挙の準備及び実施について具体的な検討	定例各種委員会 各種委員会の意義についての理解と実践 調査結果を受けて活動内容の検討・改善	生徒会意識調査実施 生徒会の意義についての理解と活動の改善 <P.8事例参照> 1 学級活動「生徒会活動について考えよう」 選挙管理委員会発足 選挙の意義の理解	生徒会の一員としての自覚と生徒会活動の理解について調査する。 生徒一人一人が生徒会の一員であることへの自覚を深める。 選挙を通して生徒会の意義を高める。 新たな生徒会役員を育て、より良い学校づくりをする。	意識調査を活用して、生徒会活動の課題を把握し、今後の活動にかすようにする。	生徒一人一人が生徒会の一員としての自覚をもつて全校的な視野に立ち、組織として自主的な活動をしているか。
生徒会役員選挙	全校体制で行う選挙の準備及び実施について具体的な検討	各種委員会での仕事内容の確認と実践	選挙管理委員会発足 選挙の意義の理解	選挙を通して生徒会の意義を高める。 新たな生徒会役員を育て、より良い学校づくりをする。	選挙管理委員の意識を高め、適正な選挙を実施させる。	生徒一人一人が選挙の意義を認識できたか 生徒会活動の内容や自分の役割を理解できたか。
生徒会後期任命式 後期認証式	後期第一回中央委員会 各委員会の委員長に意識付け	後期第一回各種委員会 委員長は、各種委員会に引継ぎ内容を確認	後期組織・目標づくり 班編成 認証状受け渡し 学級での自分の役割を確認	新組織の一員としての自覚をもつ。 意欲をもつ。	学校から任命されることを重要な役割であることを認識させる。 認証状を配布することで意識を高めさせる。	生徒会役員としての立場や意義について理解し、行動できた。
エコキヤップ運動強化月間 P.10 事例へ	エコキヤップ運動強化月間への企画の検討 <P.10事例参照> 「エコキヤップ運動」	各種委員会で取り組むエコキヤップ運動の具体的な内容の検討と実践	ボランティア活動の意義の理解と参加 <P.13事例参照> 学級活動「エコキヤップ運動について考えよう」	生徒が集団や社会の一員であるという自覚と役割意識をもつ。	各種委員会や学級活動等と連携させた指導計画を作成する。	エコキヤップ運動の意義を理解して、生徒会の一員としての自覚をもって実践している。
生徒会サミット	定例中央委員会 生徒会サミットでの事例を報告	各種委員長が、生徒会サミットの様子を専門委員で報告	第2回生徒会意識調査 アンケート実施	生徒会サミットにおいて他校から様々なことを学び吸収、実践する。	参加するだけでなく自主的に発言できるようにする。	生徒会の活動に自主的、自律的に取り組めた。
卒業生を送る会	定例中央委員会 委員会に、委員会単位での準備、企画できることとの検討 各種委員会や学級での取組の取りまとめ	委員会単位で企画またサミットの様子を専門委員で報告 委員会の実践	学年での催し物の準備 学級単位で3年生に対して出来ることの話 いと実践	卒業生に対する感謝の気持ちをもつ。	感謝の気持ちを伝えるとともに、下級生としての意識を高める。 学年全体で一人一人が参加する意識をもたせる。	生徒全員が3年生に対してする気持ちをもち取組めたか。 生徒会の一員として自覚をもち、実践できた。

3 検証授業 1

(1) 生徒会活動の実践事例

活動名「生徒会の一員であるという自覚を高めよう～意識調査アンケートを活用して～」

ア 活動のねらい

- 生徒一人一人が生徒会の一員であることへの自覚を深める。
- 自校における生徒会活動について知り、生徒会活動に対する関心・意欲を高める。
- 積極的に生徒会活動に参画しようとする態度を育てる。

イ ねらいに迫るための工夫

(7) 「生徒会活動に関する意識調査アンケート」を活用し、生徒自身がその実態を把握・分析することで、これまでの生徒会の取組に対する課題を理解し、生徒会活動をより活性化させていく手段を生徒自身に考えさせる。また、アンケートに取り組むことにより、生徒一人一人が生徒会の一員であるという自覚を認識させるとともに、今後の生徒会活動の活性化につなげていく。

(4) 生徒会活動と学級活動と関連させた活動計画を作成する。

ウ 評価規準

観点	集団や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価 規 準	生徒会活動に関する意識の現状に関心を持ち、生徒一人一人が生徒会組織の一員としての自覚を深める。	生徒会の一員としての自覚をもって全校的な視野に立ち、組織として自主的な活動をしている。	生徒会活動の意義や組織について理解し、生徒会活動に参画する仕方について理解している。

エ 活動の過程

時 期	活動の主体	○活動の内容 ◇指導上の留意点	■評価の視点
5月上旬	生徒総会	○生徒会役員会・各種委員会の活動方針と活動内容を承認させる。 ◇活動方針・活動内容が今後の生徒会活動の活性化につながるようにする。	■生徒会組織の一員としての自覚をもって、生徒総会に参加しているか。 (関心・意欲・態度)
6月	生徒会役員会	○「生徒会活動に関する意識調査アンケート」の設問内容を検討する。 ◇生徒会活動の意義が全校生徒に伝わり、今後の活動に生かせるような設問を作成させる。	■生徒会活動の評価の観点から踏まえた設問になっているか。
7月上旬	各学級	○「生徒会活動に関する意識調査アンケート」を各学級で実施する。	■アンケートの意義を理解して取り組んでいるか。(知識・理解)
7月中旬	中央委員会 (本時①) P.7 事例へ	○「生徒会活動に関する意識調査アンケート」結果を集計・分析し、グラフ化し、今後の活動について検討する。 ◇アンケート結果から課題を把握し、今後の生徒会活動に生かす具体的な手だてを考えさせる。	■中央委員会の一員としての役割意識を持ち、全校的な視野に立って諸問題を解決しようと考え、実践しているか。 (思考・判断・実践)
7月下旬	各学級 (本時②) P.8 事例へ	○「生徒会活動に関する意識調査アンケート」の分析結果を各学級で検討し、生徒一人一人ができることを考える。	■生徒会活動に関心を持ち、他の生徒と協力して自主的に参加しているか。(関心・意欲・態度)
9月以降	随時	○「生徒会活動に関する意識調査アンケート」の分析結果をもとに、具体的な手立てを実践していく。	■生徒会役員会の一員としての役割意識を持ち、全校的な視野に立って諸問題を解決しようと考え、実践しているか。 (思考・判断・実践)

オ 本時の指導① <中央委員会>

(ア) ねらい

「生徒会活動に関する意識調査アンケート」の結果から、生徒一人一人に生徒会の一員であるという自覚をもたせ、生徒会活動をより活性化させるための具体的な手だてを考えさせる。

(イ) 展開

	主な活動の内容	◇指導上の留意点と■評価の視点
活動の開始	生徒会役員が今日の活動の流れを説明する。 「生徒会活動に関する意識調査」のアンケート集計作業を表計算ソフトウェアで行う。	◇表計算ソフトウェアに入力するフォーマットを事前に準備させる。 ■生徒会役員会・中央委員会の一員としての役割意識を持ち、アンケートの集計作業をしているか。 [関心・意欲・態度]
活動の展開	アンケート結果を、学年と学校全体の表とグラフにまとめ、考察し、その結果から具体的な手だてを検討する。 今までの活動から、課題を考え、具体的な改善策を提案する。	◇アンケート結果や記述された意見についての改善策を提案させる。 ◇アンケート結果から学年における差の原因を考察させる。 ■全校的な視野に立って諸問題を解決しようと考え、実践できる具体策を提案しているか。[思考・判断・実践]
活動のまとめ	各学級委員長は、各学級におけるアンケート結果の活用方法について検討する。	◇アンケート結果の活用法についての共通理解を図る。 ◇学級での話し合いでは、アンケートに答えた側の本質的な意見を大切にすることを確認する。 ■自覚をもって全校的な視野に立ち、組織として自主的な活動をしている。[思考・判断・実践]

カ 活動の成果

生徒会役員会・中央委員会の生徒は、生徒会活動に関するアンケートの集計作業を自ら行うことによって、これまでの活動を振り返ることができた。また、アンケートの集計結果から、生徒会役員会と各種委員会のこれまでの活動を振り返り、課題を考え、具体的な改善策を検討することができた。それぞれの役割における責任感と自覚を高めることができた。また、生徒会活動が生徒一人一人が生徒会の一員であるという自覚のもとで活動することの重要性が再認識された。



中央委員会での話し合いの様子

<資料 I> 生徒会活動に関する意識調査アンケート

平成22年7月14日(火)

生徒会活動に関する意識調査アンケート

__年__組 男子・女子

1. 自分が生徒会の一員であるという意識をもっていますか? はい・いいえ

2. 生徒会本部が企画・運営している活動内容を知っていますか? はい・いいえ
「はい」と答えた人は知っているものを全て書いてください。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

合計の数

3. 生徒会本部の企画する活動に関心はありますか? はい・いいえ

4. 生徒会本部の企画する活動に取り組みたいと思いますか? はい・いいえ
「はい」または「いいえ」と答えた理由を書いてください。

5. 今まで、生徒会本部が企画・運営する活動に取り組みましたか?
(該当する番号に○を付けてください。)

4	3	2	1
よく	まあまあ	あまり	まったく
取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいない	取り組んでいない

上の質問で4から1を選んだ理由を書いてください。

アンケートのご協力ありがとうございました。

(2) 学級活動の実践事例(第1学年) 本時の指導②

題材名「生徒会活動について考えよう」

学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

ア 活動のねらい

- 話し合い活動を通して、生徒一人一人が生徒会の一員であるという自覚を深める。
- 生徒会活動の意義や現状・課題を理解し、生徒会活動に対する関心・意欲を高める。
- 一人一人が生徒会活動への様々な参加の仕方を考え、自分なりの考えをもち実践する。

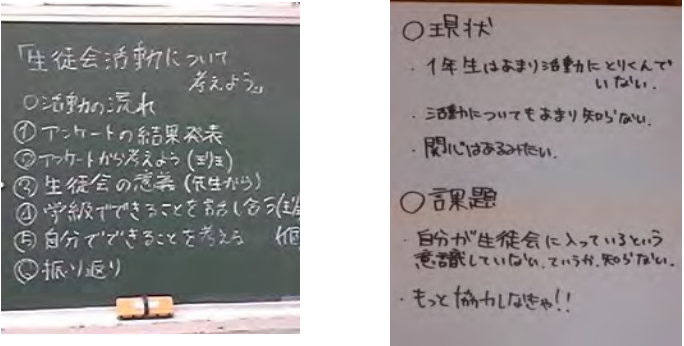
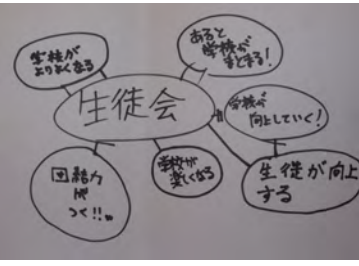
イ ねらいに迫るための工夫

- (ア) 生徒会の一員としての意識を高めるためには、生徒会活動そのものを工夫するだけでなく、学級活動と関連を図り、全教師の共通理解の下で、生徒の理解や意欲を高めていく。
- (イ) 学級活動では「生徒会活動に関する意識調査アンケート」を活用し、アンケートの結果から現状と課題について考えたり、生徒会活動を活性化させるために学級でできることはないか話し合ったりすることで、生徒会活動を活性化させていく手段を生徒自身に考えさせる。

ウ 評価の観点

観点	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
評価規準	生徒会活動に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に生徒会活動についての話し合い活動に取り組もうとしている。	生徒会の一員としての自覚と役割意識をもち、諸問題を解決する方法について考え、実践している。	話し合いの意義や仕方を理解するとともに、生徒会活動の意義や参加の仕方について理解している。

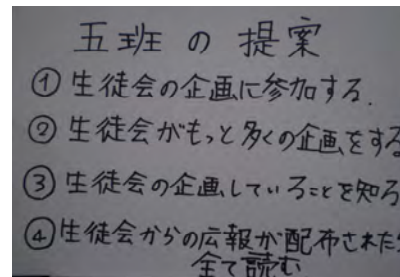
エ 展開

	活動の内容	◇指導上の留意点と■評価の視点
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> ○代表委員から今日の活動の流れを説明する。 ○生徒会活動に関するアンケートの結果を発表する。 ○アンケートの結果から現状と課題について考える。 	<p>◇活動の流れを黒板に書いておく。 ◇黒板にアンケートの結果を掲示する。 ◇班ごとに現状や課題についてわかったことを話し合い、画用紙に書かせ、掲示させる。</p> <p>■積極的に話し合い活動に参加しているか。(関心・意欲・態度) ■現状や課題について理解することができたか。(思考・判断・実践)</p> 
活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動の意義について考える 	<p>◇生徒会の様々な活動が自分たちの生活にどう影響するか考えさせる。 ■学校生活をよりよいものにするために生徒会活動が必要であることを理解できたか。(知識・理解)</p>  <p style="text-align: center;">生徒会の意義の理解</p>

活動の展開	<p>○生徒会活動を盛り上げるために学級でできることはないか班で話し合う。</p>	<p>◇どんな活動があるかを考えさせながら、学級として協力する方法はあるのか、どんな形で協力できるかを考えさせる。 ■学級でできる工夫を提案することができたか。(思考・判断・実践)</p>
活動のまとめ	<p>○自分がどのような形で生徒会活動に取り組むことができるか考える。 ○学級活動の振り返りカードを記入させる。</p>	<p>◇個人として協力できることはどんなことかを考えさせる。 ■自分の考えをまとめることができたか(思考・判断・実践)</p> <p>◇今日の話合いで、自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたり、すすんで話合いに参加できたか、自己評価させる。 ■話合いに積極的に参加することができたか。(関心・意欲・態度)</p>



班の話合いの様子



エ 検証授業の成果

今回の実践事例は、生徒会活動に対する意識調査を活用し、現状を把握させること、自分たちの力でよりよい活動が行えるようにするにはどうしたらよいかを考えさせ、実践へつなげることがねらいであった。

まず、意識調査の結果を示すことで、多くの生徒に、「生徒会の活動に興味はあっても実際に活動していない」という現状を気付かせることができた。また、このような結果になった背景にはどんな問題があるのかを話し合い活動を通して明らかにすることもできた。その多くは「生徒会活動の内容を知らない」「参加の仕方がわからない」というものであったが、話し合いを進める中で「生徒一人一人が生徒会の一員である」ということを知った生徒もいた。しかし、生徒会の意義について話し合う場面では、学校を盛り上げ、学校生活をより良いものにしていくために生徒会活動は必要であり、そのためには一人一人が自覚して活動に参加していかなければならないという意見が多くみられた。



班の話合いについての発表

今後の取組としてあげられたものは、「生徒会の活動に関心をもち、広報紙をよく読む」「活動内容を知る」など、特別なことではなく、一見当たり前のようなことであるが、学級で話し合いをすることで、全員で協力をしていこうという積極的な姿勢をもたせるきっかけとなった。

以上のように、意識調査を行うこと、そしてその結果の振り返りをするそのものが、生徒の自覚を高めることにつながるということを実証することができた。生徒の感想をいくつか紹介する。

- ・自分たちの代表の人たちを支えたり、それに協力したりすることはとても大事だと思った。
- ・生徒会の活動をあまり知らなかったけど、今日の授業を通して活動を知ることができた。
- ・学校生活の中で、自分を磨く一歩として、生徒会の活動に協力していきたい。
- ・自分も生徒会の一員なのだから、自分ができる限り積極的に頑張ろうと思った。
- ・今日のようにみんなで一つのことについて考える機会をつくるのはよいことだと思った。

4 検証授業2

(1) 生徒会活動の実践事例

活動名「エコキャップ運動」

ア 活動のねらい

- 社会貢献や環境問題に関心を持ち、生徒が集団や社会の一員であるという自覚と役割意識を深める。
- 社会の充実・向上に積極的に関わる自主的・実践的な態度を育てる。

イ ねらいに迫るための工夫

- (ア) 実際に取り組んでいる学校が多い「エコキャップ運動」に着目し、各種委員会や学級活動等と関連させた指導計画を作成する。
- (イ) 各種委員会や学級活動等を通して活動の意義について話し合ったり、活動を充実させるための方法を考えたりすることで、各種委員会の成員や学級の生徒一人一人が、積極的に「エコキャップ運動」に参加する意識を高める。

観点	集団や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価 規準	社会貢献や環境問題に関心をもつとともに、学級や学校の生徒と協力して、エコキャップ運動に積極的に取り組もうとしている。	生徒会の一員として自覚と役割意識を持ち、エコキャップ運動の成果を上げる方法などについて考え、判断し、協同して実践している。	エコキャップ運動について、ボランティア活動としての意義や参加の仕方を理解している。

ウ 活動の過程

月	活動の主体	○活動の内容	◇指導上の留意点
4	生徒会役員会	○エコキャップ運動の企画・立案 ○中央委員会や各種委員会、各学級で意識をもって活動に協力してもらうための方法を考える。 ○全校生徒の意見を取り入れる方法について話し合う。	◇エコキャップ運動の成果を上げ、全校生徒一人一人に生徒会の一員としての意識をもって活動に協力してもらうにはどうしたらよいかを考えさせる。
5	中央委員会	○活動計画細案の決定 ○生徒会役員会の企画の説明を受け、各委員長と各学級の学級委員が、「エコキャップ運動の成果を上げるために」というテーマで、方法などについて意見を出し合う。	◇各組織のリーダーとしての役割を自覚させ、活動の意義を十分に理解させるとともに、各組織が具体的に活動に参加できるように指導する。
	各種委員会 (本時①) P.11 事例へ	○各委員会で、活動の意義や目的について共通理解し、具体的な実践の取組方法等について意見を出し合う。	◇各委員会での話し合いがエコキャップ運動の成果につながるよう、委員長に対して、必要に応じて事前の指導を行う。
	各学級 (本時②) P.13 へ	○各学級で、活動の意義や目的について共通理解するとともに、成果を上げるための方法について話し合う。	◇学級の一員としてだけでなく、社会の一員としての自覚をもたせるようにする。生徒中心の活動になるように、学級委員や班長を事前に指導する。
6	中央委員会	○各種委員会及び各学級で出された意見や取組の方法を中央委員会で発表し、集約する。	◇全校生徒の意見や取組方法の案を、各組織のリーダーとしてまとめることを意識させる。
	生徒会役員会	○中央委員会で集約した意見や取組の方法を生徒会で検討し、学校としての実施案としてまとめて、生徒朝礼等で全校生徒に発表する。	◇生徒会のリーダーとしての自覚をもたせ、全校生徒が自主的・実践的に取り組める実施案をまとめられるよう支援する。
	全校生徒による強化月間	○各委員会や各学級、個人でできる取組をそれぞれ実践する。	◇各指導担当者(学級担任を含む)は、一人一人が生徒会の一員としての意識をもって役割を果

			たし、活動の成果を上げられるよう支援する。
7	生徒会役員会	○キャップの回収後、生徒会役員会と美化委員会ですぐに集計を行い、取組の状況について、掲示や放送等で全校生徒や地域に報告する。	◇速やかに成果を報告し、成果を共有することが、生徒会への意識の向上や生徒会活動の活性化につながることを意識させる。

エ 本時の指導① <各種委員会>

(7) 活動のねらい

- 生徒一人一人が活動の意義や目的を理解し、活動に積極的に取り組む態度を育成するとともに、全校生徒が自主的・実践的に活動することができるようにする。
- 各種委員会において具体的な実践の取組方法や役割分担等について検討する。
- 各種委員会の活動を通して、学級や学年を超えた生徒相互の交流を図り、上級生としての自覚や責任、下級生としての役割などについて考えることができるようにする。

(イ) 展開

活動の組織	○活動の内容	◇指導上の留意点	■評価の視点
学級委員会	○各学級で取り組めることについて意見を出し合う。 (活動例)学級委員が、活動の意義や目的について周知し、学級で成果を上げる方法を話し合う。学級で班ごとに、持ってくるキャップの個数の目標を決める。	<各種委員会共通> ◇各組織が具体的に活動できるように指導する。	<各種委員会共通> ■エコキャップ運動の成果を上げようとしている。 (関心・意欲・態度)
放送委員会	○放送を活用した周知の方法について話し合う。 (活動例)昼の校内放送で、全校生徒に協力を呼びかける。	◇できるだけ生徒自らが活動計画を立てるように援助する。	■エコキャップ運動の成果を上げる方策を主体的に考えようとしている。 (思考・判断・実践)
保健委員会 (P.12 事例へ)	○エコキャップによって購入できるワクチンについて生徒に知らせる方法について話し合う。 (活動例)ポリオなどの感染症やそのワクチンについて、ポスターを作成して掲示する。保健だよりを発行する。	◇話し合いが生徒中心の活動になるよう、委員長や副委員長に事前の指導を行う。	■各種委員会の委員としての自覚と役割意識をもち、エコキャップ運動の成果を上げるために自分たちにできることを考えている。 (思考・判断・実践)
美化委員会	○環境問題やリサイクルの側面から、活動を生徒や地域に呼びかける方法を話し合う。 (活動例)大掃除などの際に出るキャップを捨てずに集めるよう、各学級で呼びかける。	◇生徒一人一人が生徒会の一員であることを自覚し、活動に関心をもてるような働きかけをする。	■エコキャップ運動の意義について理解している。 (知識・理解)
図書委員会	○図書を通して活動を活性化する方法を話し合う。 (活動例)図書室で、環境問題やリサイクル、感染症やボランティア活動、ユニセフなどについての図書を集めたコーナーを作り、それを図書だよりやポスターで全校生徒に周知する。	◇活動の成果が得られ、充実感や存在感を味わうことができるような活動になるように援助する。	
生活委員会	○学校生活全般を通して、活動を活性化する方法を話し合う。 (活動例)朝のあいさつ運動の中で呼びかけを行う。回収を呼びかけるポスターを作り、校門や昇降口に掲示する。	◇社会の一員としての視点でも考えさせる。	

ウ) 保健委員会における展開例

指導上の留意点については、前ページの「展開」を参照のこと。

活動の流れ	主な活動内容
事前	○委員長、副委員長による打合せを行う。 ○取組内容の概要を検討する。
本時	○委員長がエコキャップ運動のねらいや意義、保健委員会の役割を伝える。 ○副委員長が取組内容の概要を説明する。 ○二つの実践班に分かれ、取組内容の詳細案を検討する <取組1>ポリオの感染症や活動で購入できるワクチンについてなどの内容のポスターを作成する。 <取組2>ポリオの感染症や活動で購入できるワクチンについてなどについて調べ、調べたことを記載した保健だよりを作成する。 ○各実践班から報告を行い、保健委員会としての取組内容について理解する。
事後	○各実践班による具体的な実践

オ 活動の成果

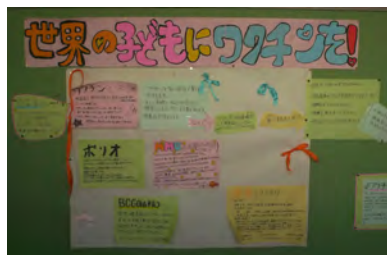
中央委員会で、生徒会役員会から各委員会の委員長に対して、エコキャップ運動強化月間への取組内容の検討を依頼し、定例の各種委員会の際に、各委員会で検討を行った。さらに、検討した内容を中央委員会で集約し検討した上で、委員会ごとにと取組を実践した。

その結果、校内や校舎周辺に多数のポスターが掲示されるとともに、朝礼や校内放送による、生徒への呼びかけが行われ、学校全体としてエコキャップ運動を活性化させようという雰囲気が高まった。

また、各学級では、中央委員会の検討を受けて、各種委員会に所属する生徒が、取組内容の説明や生徒会の一員としての協力を呼びかけた。各種委員会の生徒はもとより、これまでは目的や意義の知らないままキャップを回収箱に入れていた生徒も、エコキャップ運動の意義や方法を理解することができた。このような実践を通して、社会貢献や環境問題に関心をもち、生徒が集団や社会の一員であるという自覚と役割意識を深めるとともに、生徒一人一人が、生徒会の一員であるという自覚を高めることにつながったと考える。

さらに教師も、生徒会役員会の指導担当者だけでなく、各種委員会担当や学級担任など、教師一人一人が、エコキャップ運動の意義や具体的な取組内容を共通理解することができた。

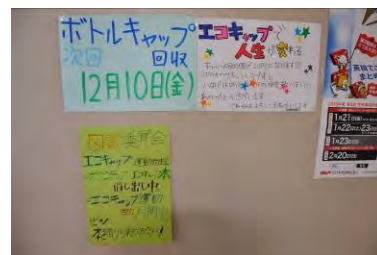
また、ある教師からは、「生徒会活動の在り方そのものについて、改めて考える機会になった」という意見もあった。



保健委員会ポスター



キャップ回収の様子



ボランティア部、図書委員会のポスター

(2) 学級活動の実践事例(第1学年) 本時の指導②

題材名「エコキャップ運動について考えよう」

学級活動(2)カ ボランティア活動の意義の理解と参加

ア 活動のねらい

- 生徒一人一人がエコキャップ運動の意義や目的を理解し、活動に積極的に取り組む態度を育成するとともに、自主的・実践的に活動することができるようにする。
- 学級において具体的な実践の取組方法や役割分担等について検討する。
- エコキャップ運動を活性化させるために学級でできることについて考えることを通して、生徒会の一員であるという意識を高める。

イ ねらいに迫るための工夫

- (ア) 生徒会の一員としての意識を高めるために、生徒会活動そのものを工夫するだけでなく、学級活動と関連を図り、全教師の共通理解の下で、生徒の理解や意欲を高めていく。
- (イ) インターネットを活用して、他の学校や社会がどのように取り組んでいるかなどエコキャップ運動に関する情報を収集し、自分たちには何ができるかを話し合うことを通して、集団や社会の一員としての自覚と役割意識を深める。

ウ 事前の指導

- 学級委員と学級に所属する生徒会役員が事前に打ち合わせを行う。学級活動の目的や流れ、話し合いの方法などについて検討する。指導上の留意点としては、できるだけ生徒自らが活動の計画を立てられるようにする。また、話し合いが生徒中心の活動になるようにする。

エ 評価の観点

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価 規 準	エコキャップ運動に関心を持ち、他の生徒と協力して、自主的、自律的にエコキャップ運動についての話し合い活動に取り組もうとしている。	これまでのエコキャップ運動に関する自己の課題を見出し、それを解決する方法について考え、実践している。	話し合いの意義や仕方を理解するとともに、エコキャップ運動の意義や参加の仕方について理解している。

オ 展開

	活動の内容	◇指導上の留意点と■評価の視点
活動の開始	<ul style="list-style-type: none"> ○司会が、今日の活動の流れを説明する。 ○エコキャップ運動のこれまでの取組を振り返る。 ○保健委員が、エコキャップ運動の内容や意義について説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇話し合いが生徒中心の活動になるよう、事前の指導を行い、学級に所属する生徒会役員が司会をする。 ◇全校生徒で協力して取り組む活動であることを強調し、生徒会の一員として今日の活動に積極的に参加するよう呼びかける。 ◇これまでどのように取り組んできたかをワークシートに記入させる。 ◇事前に保健委員会で調べたことを参考に、集めたキャップがどうなるのか、地球環境の保護、資源の有効活用、子供の命を救うなど、様々な視点で説明する。 ◇必要に応じて学級担任が支援する。 ■エコキャップ運動について、ボランティア活動としての意義や参加の仕方を理解しているか。〔知識・理解〕
活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○エコキャップ運動に、全校で取り組む意義について話し合う。 ○エコキャップ運動を活性化させるために、クラスでできるこ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇なぜエコキャップ運動に取り組むのか班ごとに話し合い、班の意見を画用紙に書き、班長に発表させる。 ◇一人一人が生徒会の一員であることを自覚し、活動に関心をもてるように働きかける。 ◇社会の一員としての視点でも考えさせる。 ■学校生活の充実と向上に関わる諸問題に関心を持ち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に生徒会の活動に取り組もうとしているか。〔関心・意欲・態度〕

	<p>とについて話し合う。</p> <p>○さらに工夫して取り組めることがないかをインターネットを使って調べる。</p>	<p>◇クラスでできることを班ごとに話し合い、画用紙に書かせる。</p> <p>◇充実感や存在感を味わうことができる活動になるよう支援する。</p> <p>◇社会の一員としての視点でも考えさせる。</p> <p>◇班長に発表させ、生徒会役員に黒板に書かせる。</p> <p>■エコキャップ運動の成果を上げようとしているか。〔関心・意欲・態度〕</p> <p>■生徒会の一員としての自覚と役割意識をもち、エコキャップ運動の成果を上げるために自分たちにできることを考えているか。〔思考・判断・実践〕</p> <p>◇「エコキャップ運動」や「中学校」などのキーワードを入力し検索すると調べられることを生徒会役員から説明させる。</p> <p>◇調べた結果を班で画用紙にまとめ、班長に発表させる。</p> <p>■エコキャップ運動の成果を上げようとしているか。〔関心・意欲・態度〕</p> <p>■生徒会の一員としての自覚と役割意識をもち、エコキャップ運動の成果を上げるために自分たちにできることを考えているか。〔思考・判断・実践〕</p>
活動のまとめ	<p>○今日の授業を終えての振り返りと感想を記入する。</p> <p>○生徒会の一員として自覚をもち、エコキャップ運動に積極的に参加するよう、生徒会役員から呼びかける。</p>	<p>■活動に積極的に参加することができたか。〔関心・意欲・態度〕</p> <p>◇全校生徒の意見を集約して取組内容を考えるのだからということも補足する。</p>

カ 本時の評価

- エコキャップ運動の意義や目的を理解し、話し合い活動に積極的に取り組むことができたか。
- エコキャップ運動を活性化させるために学級でできることについて考えることを通して、生徒会の一員であるという意識を高めることができたか。

キ 事後の活動

中央委員会や生徒会役員会で検討された学校としての実施案に基づき、取組を実践する。

ク 検証授業の成果

今回の実践は、「エコキャップ運動強化月間」の取組の一環として行った。各種委員会でエコキャップ運動の内容や意義について理解していることを前提に、学級活動で、学校として全校で取り組む意義について考えさせた後、学級でできる具体的な方策について考えさせた。班での話し合い活動だけでなく、インターネットを活用して調べさせるという工夫を取り入れたところ、興味をもって意欲的に調べる生徒が多かった。エコキャップ運動に関するいろいろなサイトを見ることで、活動の意義の理解が深まり、エコキャップ運動に対する意欲の向上にもつながったと考える。

生徒が記入した授業の振り返りの中でも、9割以上の生徒が「エコキャップ運動の意義がわかった」と答えている。また、ポリオワクチンや焼却の際の二酸化炭素の発生量などについて調べる中で、生命尊重や環境問題に対する意識を高めていた。「生徒会の一員としての自覚をもち、話し合いに積極的に参加することができましたか。」の問いに、8割以上の生徒が「できた」と回答しており、生徒会の一員であるという自覚を高めることにもつながった。授業後の実践では、学級独自の回収ボックスを設置し、一週間で954個ものキャップを集めることができた。生徒の感想をいくつか紹介する。

- ・今までやる気がなかったけど、少しやる気が出た。
- ・エコキャップを集めるだけで人の命が救えるなら毎回出したいと思った。
- ・一つでも多くキャップを集めて、一人でも多くの人々の命を救いたいです。
- ・これまで貢献しなかったので、次は貢献する。
- ・全校生徒で簡単に集まるキャップ800個で人の命が助かるので、もっとたくさんの人が積極的に取り組めれば良いと思いました。
- ・エコキャップ運動は大切だと思った。エコキャップ運動に参加しようと思った。
- ・話し合いを通して、いろいろな考えを聞くことができてよかったと感じています。
- ・他の班からいろいろな意見が出て「なるほど」と思った。今日の授業をやってよかった。
- ・エコキャップ運動に興味はなかったけど、少しはエコキャップのことがわかった。
- ・エコキャップをたくさん集める方法がよくわかりました。
- ・自分の学校以外にも、たくさんの地域がエコキャップ運動に参加していることがわかった。

V 効果検証と研究の提言

1 効果検証の概要

研究課題に対する実践を行った結果を考察するために、効果検証を行った。

効果検証は都内5校の生徒1,374名を対象に12月に実施した。

2 効果検証の分析と考察

設問1については、生徒が生徒会の一員であるという意識をもっている生徒の割合が15.2%増加した。設問2では、生徒会役員会が企画・運営する活動の内容を知っていると回答した生徒の割合が、約25%増加した。設問3では、生徒会の活動に関心があると回答した生徒の割合が18%増加した。また、設問4では、生徒会の活動に取り組みたいと思う生徒の割合が7.7%増加した。

設問5については、回答の期間が短く、取り組める活動が限られていたこともあってか、数値的な変化に顕著なものは見られなかったが、活動に「よく取り組んでいる」と回答している生徒は、いずれの学年でも増加が見られ、その割合も事前と事後で5.4%の上昇を示した。

これらの効果検証の調査結果と検証授業の成果を受けて、今回の検証授業における研究に迫る手だてによって、生徒会の一員としての自覚を高め、生徒会活動の意義を理解し、生徒会活動に意欲的に参画する態度の育成に効果があったと捉えることができる。

3 研究の提言

検証授業の成果及び検証授業後の調査の結果を受けて、研究のねらいに迫る手だてとして有効であった指導の工夫について次のようにまとめ、本研究の提言とすることとする。

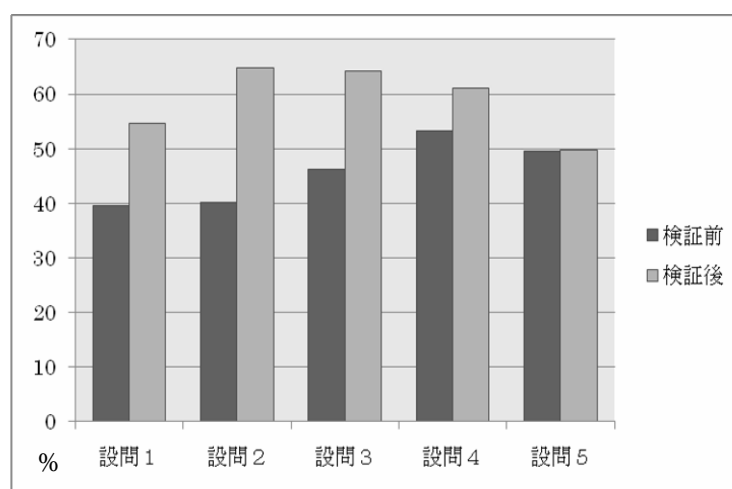
(1) 生徒会活動の内容の工夫

- ア あいさつ運動やエコキャップ運動などの普段の活動を見直す。(検証授業2参照p.10～)
- イ 生徒一人一人に生徒会の一員であるという自覚をもたせる指導の工夫が必要である。
 - ・生徒会活動に関する生徒の意識調査アンケートを活用する。(検証授業1参照p.6～)
 - ・学級活動と関連させた指導を行う。(検証授業1・2参照p.8～,13～)

(2) 各種委員会や中央委員会及び学級活動等の関連を図った指導計画の作成

- ア 生徒会役員会や一部の生徒の活動にならないよう、各種委員会や中央委員会及び学級活動の関連を図った計画を作成し、各学級に在籍する生徒会役員会や各種委員会の委員などが中心となって、生徒会活動の活性化のために学級活動において話し合えるような指導の工夫が必要である。(検証授業1・2参照p.6～,p.10～)
- イ 学習指導要領における生徒会活動の目標や自校の生徒会活動の年間活動計画を理解する必要がある。(調査結果p.4参照)

設問1	自分が生徒会の一員であるという意識をもっていますか
設問2	生徒会役員会が企画・運営する活動内容を知っていますか
設問3	生徒会役員会が企画する活動に関心はありますか
設問4	生徒会役員会が企画する活動に取り組みたいと思いますか
設問5	生徒会役員会の活動にどう取り組みましたか



(3) 学級活動の指導の工夫

ア 学級活動において生徒会活動に関する題材を設定し、生徒会活動の意義を理解させ、社会や集団の一員として何ができるか考えさせる指導の工夫を行い、生徒の生徒会活動への意識を高めるようにする。(検証授業1・2参照p. 8～, 13～)

イ 話し合いの手法を工夫する。(検証授業1学級活動参照p. 8～)

ウ インターネットの活用など生徒の関心を高める指導の工夫をする。

(検証授業2学級活動参照p. 13)

(4) 教師の意識化と全校体制での取組

生徒会役員会の指導担当者だけでなく、各種委員会の担当者や学級担任など教師一人一人が生徒会活動を理解し、全校体制で生徒の取組を支援する指導にあたるのが大切である。(検証授業1・2参照p. 6～, p. 10～)

VI 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究は、特別活動において、「生徒会の一員としての自覚をもち、生徒会活動に意欲的に参画する態度を育てる」ための指導の工夫を研究のねらいとし、基礎研究、調査研究に基づいて検討した「ねらいに迫る手だて」について、実践研究を通してその有効性を確かめた。その研究の成果を次の通りまとめることができた。

(1) 調査研究により、生徒や教師の生徒会活動に関する意識について把握した

「生徒会活動」を「生徒会役員会や一部の生徒の活動」ととらえ、生徒が生徒会組織の一員としての自覚をもって活動しているとはいえない現状であることが分かった。また、生徒の活動が活発に行われるよう、教師が十分な支援をしているとは言えない現状が問題点として把握できた。

(2) 生徒一人一人に生徒会の一員であるという自覚をもたせる指導の在り方を示すことができた

ア 生徒会活動の内容の工夫

イ 学級活動の指導の工夫

ウ 各種委員会や中央委員会及び学級活動等との関連を図った指導計画の作成

エ 教師の意識化と全校体制での取組

詳細については、前項の「効果検証を受けての提言」で示したとおりである。

2 今後の課題

中学校の特別活動については、担当している教科に関わらず、すべての教師が指導に当たることになり、その指導力の向上が求められる。しかし、教師自らが、特別活動の目標や内容について十分に理解していない現状がある。そこで、各学校の特別活動の指導に当たっては、校内研修等で、目標や活動内容、学校の実態に合わせた指導方法についての共通理解を十分に図り、生徒会活動を活性化し、生徒の学校生活全体の充実・向上につながる指導体制の更なる充実が必要である。

さらに、特別活動の評価についても、学校全体で共通理解した評価規準により、生徒の自主的・実践的な態度をより向上させるような評価の在り方について検討し、全教師で取り組んでいく必要がある。

平成22年度 教育研究員名簿

中 学 校 ・ 特 別 活 動

地区	学 校 名	職名	氏名
新宿区	西早稲田中学校	教諭	土屋 伸吾
世田谷区	駒留中学校	主幹教諭	小田切 誠治
中野区	第三中学校	主任教諭	○歌田 多恵
足立区	第八中学校	教諭	金井 真大
足立区	千寿桜堤中学校	教諭	◎末富 俊樹

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育開発課
統括指導主事 青木由美子

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
中学校 特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕
平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451